

しが国際協力親善大使レポート

はやせ ゆきひろ
早瀬 幸博さん

隊次：2017年度2次隊

職種：体操競技

派遣国：ベトナム

自己紹介

滋賀県草津市在住で出生地は鹿児島県です。

私は、中学生の時に体操競技というスポーツに出会い、以後16年間選手生活を続けられた事に感謝しています。

その中でソウルで開催されたアジア大会、ロッテルダムでの世界選手権等にも出場させて頂き世界の技術を肌で感じる事が出来ました。

モスクワで開催された国際大会の際に、ロシアのジュニア選手がオープン参加で出場し、私たちナショナル選手同様の技術を身につけていた事に驚きを隠せませんでした。そして私自身、世界との技術的な遅れを痛感しました。なぜジュニア期でこれほどの演技ができるのかを解明したい気持ちになった事が、私の指導者としての原点です。

指導者として28年間、全日本コーチ・実業団コーチを経て、ジュニア世代の育成が重要だと知り指導対象を青年からジュニアへ移行することを決断しました。

滋賀県では外郭団体に所属しながら、勤務外にボランティア活動として選手育成を続けてきました。当初は基本が何か分からない状態から始まりましたが、同僚や仲間の協力のもと少しですが競技性が分かったような気がします。私の目標は体操技術だけではなく、子供たちのやる気や笑顔を失うことなくスポーツの楽しさを教えることと考えています。また子供たちが何かを成し遂げた時の笑顔や、小さなガッツポーズを見るのを楽しみに指導しています。

活動している国、地域の気候や文化の紹介

ベトナム南部のカントー市というところで活動しています。カントー市はホーチミン市の西約160キロメートルに位置し、メコン川最大の支流に位置します。熱帯モンスーン気候帯に属し、雨季と乾季があり、年間平均気温は27度ととても過ごしやすい所です。日本でいう四季はなく、年中夏とイメージしていただければ良いと思います。

また時間の流れもゆっくり感があり、家族や友人を大切にしているところがとても好感が持てます。時間に正確で効率重視だった日本文化と比較して戸惑うこともあります。人と話をするのが大好きなお国柄と思えば納得できます。

活動や生活について

配属先の名称：ベトナム体操連盟・カントーナショナルスポーツトレーニングセンター

総合的な技術の向上が目的であり、指導者のレベルアップが期待されています。

選手候補生（8才-10才）の男女7名。育成候補生（6才-7才）の男女4名。カントー市の体操連盟として2016年5月に発足したばかりであり、私が赴任するまでは柔軟性や基礎的な部分の練習が中心でした。

ベトナム語の発音は難しく、言葉も通じない相手にどうして教えていくのが一番の問題でした。またベトナムの学校では体育の授業がない事も知り、驚きました。鉄棒の逆上がりをさせたら、初めてする子がほとんどでしたし、違う競技の子供たちに前回りや後ろ回りをさせても初めてとって感激していました。私の配属先のトレーニングセンターは、他の競技の選手も国やカントー市の強化選手であるため、合宿生活を送りながら夕方5時半～8時半までは学校へ行っています。勉強の遅れが心配ですが、恵まれた環境でスポーツをさせてもらっています。食事は合宿所の食堂で食べます。雨季になると、カエルが食卓に並びます。日本ではカエルを食べる習慣がありませんが、子供たちは美味しそうに食べます。メコン川支流という事で川魚も多く出てきます。味付けは甘いです。こちらでは味の素が定番の調味料で、日本といえば味の素と言われるぐらいです。移動はバイクが主流なのでホンダやヤマハの日本製バイクが人気です。また、カントー市は日本人が少ない地域ですのでいつも違う国の人と間違われますが、顔もすぐに覚えてくれて名前と呼ばれることもしばしばあります。とても家庭的で嬉しくなります。カントー市の人たちは世話好きでお節介が過ぎるぐらいにしてくれます。国が違ってても人の優しさや温かさを感じることができる地域だと思います。残りの活動期間、子供たちとの交流を深めながら過ごして行きたいと思っています。



10月頃の自宅前の日常



カイライン水上マーケット



一般的なベトナム料理



選手候補生集合写真



練習風景